

バウハウスとオスカー・シュレンマー

終身会員 ○田 中 辰 明*

バウハウス	舞台工房	ヴァイマール共和国
舞台芸術	バウハウスダンス	トリアード・バレエ

はじめに

オスカー・シュレンマー（1888～1943）は画家でシュトゥットガルト生まれである。1903年から1905年迄、象眼細工工房で工芸デザイナーとしての訓練を受ける。その後1909年までシュトゥットガルト・アカデミーに在籍した。1912年から1914年迄、シュトゥットガルトでアドルフ・ヘルツェルにつく。1914年から1918年迄第一次世界大戦に従軍。その後改めて1920年までヘルツェルに学ぶ。1920年以降、自作の最初の舞台作品「トリアード・バレエ」の衣装デザインに取り組む。この作品は1922年、シュトゥットガルトで初演された。1921年から1929年迄、バウハウスのマイスターを務めた。1922年迄壁装工房、1921年から石彫工房を指導した。1923年以降工房解散の1929年迄、舞台工房の主任を務めた。人体デッサンコース、1928/29年には「人間」の授業を担当した。1928/29年にはバウハウス舞台を率いてドイツとスイスを巡回公演した。このころ自作の「バウハウスダンス」の演出の傍ら、絵画や壁装、あるいはベルリンのクロル・オペラをはじめとする舞台装置に取り組んだ。1929年から1932年迄、ブレスラウ・アカデミーの教授として、舞台芸術クラスの授業を受け持った。その後1933年に解任されるまで、ベルリンの統合芸術学校教授を務めた。アイヒベルク、後バーデン地方のゼーアリンゲンに移住した。1938年以降、壁装で生計を立てた。1940年以降ヴッパータールの塗装工場ヘルベルツの仕事を担当した。1943年バーデン・バーデンで死去した。¹⁾

1. 州立美術館 (Staatsgalerie Stuttgart)

シュトゥットガルト中央駅を出て Schillerstr. を左に進み、Konrad-Adenauer-Str. とぶつかるところに州立美術館がある。シュトゥットガルトを州都とするバーデン・ヴュルテンブルク州の州立美術館である。建物は英国の建築家 James Stirling 設計によるポストモダン建築である。この美術館にシュレンマーの作品が多数収蔵されている。シュレンマー以外にもドイツ表現派のキルヒナー、ディックス、フランツ・マルクはもとより、ダリ、ムンク、モネ、ピカソなど幅広く所蔵している。シュレンマーの1923年の作品「Der Gesetzgeber」(立法者)に注目した。1923年はヴァイマール共和国時代で非常に激しいインフレが起こ

り、一般市民は食料購入にも困窮していた時代である。そのような時代にも自分に都合の良い法律を制定する者はぬくぬくと太っているというシュレンマーの批判精神が溢れた作品である。



写真-1 州立美術館、Staatsgalerie, Stuttgart



写真-2 O. Schlemmer 作 Der Gesetzgeber (立法者)1923年 (Staatsgalerie Stuttgart 所蔵)

シュレンマーはバウハウスで「舞台工房」の主任を務めた。バウハウスはお祭りごとが好きで、市内のパレードし、「人形の小部屋 (Figurale Kabinett)」を上演してい

る。1923年にバウハウスはそれまでの成果を世間に発表すべく大規模な展示会を催している。そこでシュレンマーは「トリアード（3連）・バレエ」（Triadisches Ballett）を演出し大成功を収めた。これは従来の伝統的なバレエでなく、パロディ的なダンス・意匠・パントマイム、音楽の組み合わせであった。ダンサーは人形の扮装をしていた。人形やその衣装もシュレンマーの設計である。この人形、服装も州立博物館に所蔵されている。



写真-3 トリアード・バレエの人形(Staatsgalerie Stuttgart 所蔵)

この人形の設計図も見つけられており、それぞれの材質、色が指定されている。

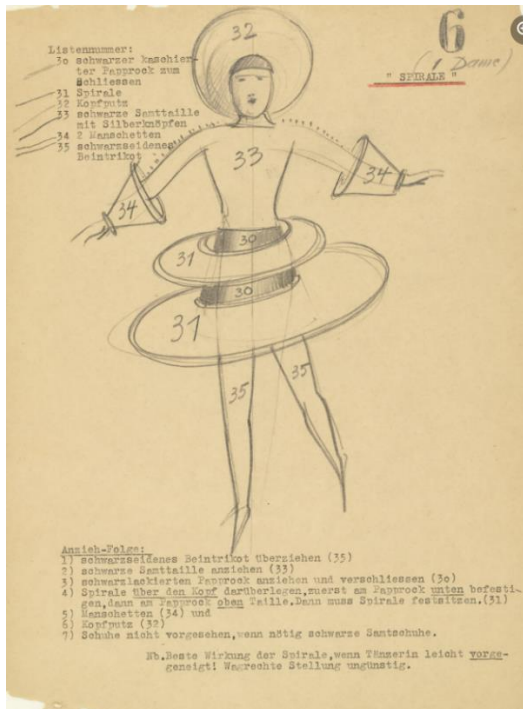


図-1 シュレンマーのトリアード・バレエ人形設計図

2. バウハウスと女子学生

シュレンマーは1932年に「バウハウスの階段」という作品を残している。グロピウスが設計したデッサウ校舎の階段を女学生が昇っていく作品である。ヴァイマルでバウハウスが1919年に開学したとき女子学生の入学希望者が多数志願した。1918年にドイツが第一次世界大戦に敗戦し、ヴァイマル共和国が誕生した。この時制定された憲法は極めて民主的で女性にも参政権が与えられた。ヴァイマル共和国誕生と同時に発足したバウハウスであったので、それまで大学で学ぶ女性は極めてまれであったにもかかわらず、国立学校であるバウハウスに多数の女子学生が入学を希望した。この時の状況をシュレンマーが作品として残した。シュレンマーは階段を昇る女子学生の写真も撮影して発表している。写真の方が女子学生の数は多い。女性がバウハウスで学び、知識を得て社会進出を果たしたという意味も持ち合わせている。写真-4で注目するのは女子学生が皆、短髪であることである。当時のドイツの女性は長髪であった。バウハウスの女子学生は短髪にして織物工房で働いた。またヨハネス・イッテンのデッサンの授業では最初に体操をさせられた。体操に適した髪型として短髪になったのである。



写真-4 シュレンマー作「バウハウスの階段」
おわりに

写真-2に示した「立法者」は現在の専制国家が都合の良い法律を次々に制定していくのと照らし合わせ、現在でも世間に訴える力のある作品であると考えられる。

参考文献

1. Magdalena Droste, „Bauhaus“ Taschen
2. Magdalena Droste und Elisa Tamaschke, „Oskar Schlemmer Otto Meyer Amden, Briefwechsel 1909-1933. I, II, III“ Nimbus. Kunst und Bücher